

水産

富樫 宥哉

内水面水産研究所
内水面水産振興部
(令和5年度採用)

県の魚「サクラマス」
の研究・調査を担当
しています

ある一日の流れ



8:30

メールの確認、調査の準備

9:00

調査地へ移動(米沢→鶴岡)

11:00

鶴岡到着 早めのお昼休憩

12:00

調査開始

14:30

調査終了 米沢へ移動

16:30

帰所 片付け&報告書作成

17:15

業務終了

「山形のおいしい魚を届けたい」生産者の想いに応えます

現在の担当業務は

山形県の「県の魚」であるサクラマスについて、研究・調査を担当しています。現在はサクラマスの増殖を図るために河川におけるサクラマスの環境収容力を解明する研究を行っています。

職場の雰囲気は

現在の職場は調査や種苗生産など複数人で行う仕事が多いこともあり、職員同士の関わりが多くアットホームな職場だと感じています。

県職員を選んだ理由は

幼いころから魚が好きで、水産の公設試験研究機関で働きたいと考えていました。そんな中で地元である山形県職員を選びました。野外調査や魚の生産など入庁前にイメージしていた業務内容を担当できており、水産職として県職員になって良かったと感じています。

ワーク・ライフ・バランスは

生き物を取り扱う仕事の為、時期や天候によって業務量や業務時間帯が多少左右されます。ただ、その分の休みはしっかりとれるので心配はないです。



検卵の様子



サクラマスの稚魚調査

